このマンガは高野山にゆかりのある地域や南海沿線に住む子どもたちへ向けて、地元に愛着を持ってもらいたいと願い制作しました。高野山の過去と現在、そしてみなさんが住む地域が高野山とともにどのように発展してきたのかを、このマンガを通して知ってもらえるとうれしいです。

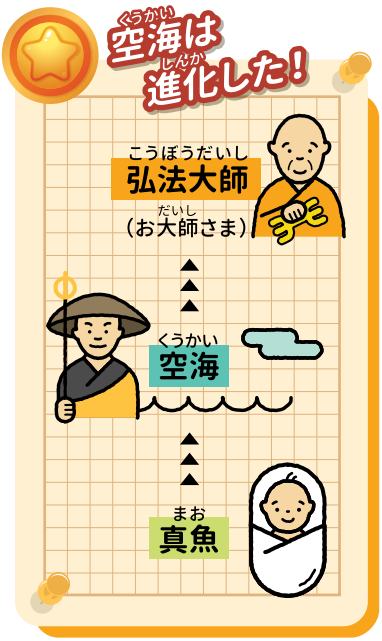
高野山を開いた「空海」とは

名前は空と海から

774年、空海は讃岐国(香川県)に生まれ、幼い頃の名前は真魚といいました。19歳で大学を中退し、山林での修行をはじめた真魚。ある日、洞窟でお経を唱えていると、突然、口に星が飛び込んできました。そのとき見えた景色が空と海だけだったため、以降「空海」と名乗るようになったそうです。

唐から高野山へ

31歳で、長期留学僧として唐(中国)に渡った空海。乗った遣唐使船が嵐にあうなど大変な苦労をしつつ都の長安にたどり着き、密教について師匠の恵果様より教わります。約20年の予定だった留学を、わずか2年で切り上げた空海は、教えを日本中に広めながら、苦しむ人々を救いました。そして816年、空海が43歳のとき、高野山を真言密教の道場と定めたのです。

愛される、弘法さんへ

921年、空海はその数々の功績を称えられ、当時の醍醐天皇から「弘法大師」の名前を贈られました。全国各地のお祭りなどで今もよく耳にする「弘法さん」「お大師さま」という呼び名は、ここからきています。日本中を歩きながら人々のために尽くした空海が、今もその土地で愛され続けている証といえるでしょう。